

平成 28 年 11 月 29 日開催

講義名：政策効果の把握に必要な統計データの適正かつ有効な利用について（演習）

講師：鳥取大学地域学部教授 小野 達也

講義時間：14 時 25 分～16 時 25 分

1. 目標達成度の把握

- ・ 政府の目標管理型政策評価や行政事業レビュー、自治体の総合計画の進行管理や事務事業評価、地方創生総合戦略の K P I など、目標値を設定して達成度を評価することが広く行われている。
- ・ このシンプルでかつ強力な手続の成否は、統計データの取扱い次第である。道具立てがシンプルだけに、基本的な道具を如何にきっちりと使うかがポイントとなる。

○ 事例 1. A 市基本構想の数値目標と達成状況

演習 1 フロー指標とストック指標の区別

ある期間、例えば 1 年間にどれぐらいの量が発生したのかを測る、毎年 0 から始まるフロー指標と、ある時点、例えば年度末の時点の水準を表すストック指標は、数字が変化する意味が違うので一緒に見るのは危険である。両者を比べたければ、ストックの指標をフローの指標に直すのが一般にシンプルかつ容易であり、明確。

演習 2 目標達成度の複数ある計算方法

目標達成度を計算する方法は基本的な考え方が大きく分けて 2 通りある。水準達成度は最後の水準を対象に達成度を計算する、実績値を目標値で割る計算方法。もう一つは変化達成率、一定期間の達成状況として変化を見る、目標値を設定した段階からどの位目標値に近づいたのかを見るもの。どちらが正しくて、どちらがいいというわけではなく、違う役割を持っている。

演習 3 目標達成度の 3 つの概念

水準達成度は最後の時点だけを考え、変化達成度は出発時点の数字を合わせて使い、更に中間時点での数字が関わってきた時には累計達成度という概念がある。3 つそれぞれ違う意味を持っているがどれかが重要な意味を持つ場合もあれば、3 つとも併せて見た方がいいケースもある。

(参考) 目標達成度を比較する基本的な方法

フロー指標とストック指標が混ざっている時に、まずストック指標をフロー指標に変換する。変換した上で 3 通りの計算式を選ぶなり、組み合わせをしてほしい。

演習 4 円グラフの意味

比べられるものを比べるのが大原則である。円グラフを描くために数えているということは比んでいるということ。つまり、フロー指標とストック指標のように比べられないものを比べてはいけないということである。

2. 正味の政策効果（インパクト）の把握

- 事例 2. 米国コネチカット州の条例－正味（ネット）の効果（インパクト）とは
 - ・ 当該プログラムが行われなかった場合と比べてどのぐらいの効果が得られたのか。
 - ・ 当該プログラムだけがもたらした効果はどれだけか（推計値）
 - ・ アウトカム指標の変化は次の 3 つに分解できる－正味の効果、外部の効果、誤差・偶然。

演習5 リビコフ知事の主張で足りないもの

大きくは2つある。一つ目は時系列の比較。2つ目として、条例の有無の差、条例がある状態とない状態でどのような違いがあるのかという比較の観点が必要。

3. アンケート結果の信頼性

標本調査の結果の信頼性は、調査の設計・実施・集計の手順に大きく左右される。

○ 事例3. B県の子育て支援サービスに関するアンケート

演習6. 調査結果を比べて、意見Aは増加、意見Bは減少と考えてよいか。

2つの調査結果は比べられるのかを考えることが必要。詳細の情報がないと比べられないが、それぞれの調査がどのように実施されたのかを知る必要がある。

- ・ 標本調査はシチューの味見のようなもの。意識してかき混ぜることが重要である。
- ・ さらに標本調査の結果を読む際の留意事項として、「偏り」のチェックが必要。

演習7. 調査の信頼性の問題点

重要なキーワードは偏り、調査の事前段階では、母集団から偏りなく標本を抽出することが大事。事後段階では、無作為抽出しても回収率が低いと偏りが大きくなる。そのチェックが必要になる。

(参考) もう一つの留意事項—誤差

標本調査で重要なのは偏りと誤差。無作為抽出という、母集団のどの人も同じ確率でサンプルになるという抽出の仕方を確保して初めて、統計学的に誤差がどのくらいかという推計ができる。

<最後に>

アメリカの大統領選挙もあり、一つ気になる話がある。やっぱり世論調査は宛てにならない、人間の営みである選挙を数字で予測しようとする限界が明らかになったなどという、おかしな言説が流布している。全くそういうことではない。選挙人の数で州により総取りと言うことが多いので結果がズレてくること、もう一つは数字の読み方が悪い。つまり、標本調査の誤差があることが数字を読む側に不足している。分かっているならば1ポイントぐらいの逆転は当たり前であり、結果が外れたということではない。また今日お話しした偏りのチェックも重要になる。

嘘には3種類ある。普通の嘘と、真っ赤な嘘と、統計だ。数字がウソをつくわけではなく、嘘をつくのは人間。ウソをつく人間が数字を使う。今日の話の趣旨もそういうことでもあるので是非政策評価の中でも数字を使った分析はいろんな形で出てくるが、やはり数字のおかしな使い方をしないということを皆さんも心掛けてほしいし、周囲の取組についてもそういう目でチェックをしていただきたい。